

## ■ 自由投稿 超短編小説「ある編集長の朝」

石垣 (20 期)

朝、部屋の中を漂う 3D タイムキーパーが近づいて来て、ベッドの中にいる編集長の頭にそっと触れた。  
ああ、朝か。

眠い目を開けて 3D タイムキーパーを見ると、【2062 年 3 月 11 日 土曜日】の文字。編集長は呟いた。  
そろそろ会報 200 号の編集をしなければいけないなあ……。でも、その前にまずは朝食だ。

今朝はオールドファッションの「ご飯と豆腐のみそ汁」にしよう、と思った瞬間、編集長の目の前に 3D の朝食映像が現れた。それを見ながら永谷園の「あさげ」サプリメントを口の中に入れ、「もう 3 年も本物のみそ汁を飲んでいないなあ。そうだ、明日の日曜日はマーケットに行つて久々に本物を買おう」と、編集長は思ったのであった。

朝食も終わり、編集長は居間のソファに座り、空間に向かいブツブツ呟き始めた。

「会長のご挨拶」原稿は 60 期の会長から既に来ているので、3D 映像をここに埋め込んで……。第 200 号特集の映像「スペース苗名」はどこに行ったのかなあ。おお、あった、あった。ところで、宇宙小屋ステーション「スペース苗名」はどこまで出来ているんだろうか。ちょっと見せてくれ(と、R2D2 に命令した)。

すると、目の前に建設中のスペース苗名が現れた。丁度 62 期の OB 小屋委員長が宇宙空間を漂いながら、外部観察装置(昔は「窓」と言った)を取り付けているところだった。編集長は目の前の R2D2 に向かって「OB 小屋委員長」と呟き、OB 小屋委員長との接続を待つて話を始めた。

「建設は順調ですか?」「順調に行っているよ。ところで、スペーススノーって知っているかい。宇宙空間の微細なゴミだよ。今年はスペーススノーが多くて、ステーションの回りにいっぱい積もっているのよ、「雪下ろし」がまた必要だな」「今、会報の編集ですので、「雪下ろし」隊の募集記事を載せておきますよ」「宜しく頼むよ、ありがとう」



また、編集長は R2D2 に向かって呟き始めた。

さて、次は役員会報告だ。原稿は……。おお、来ている、来ている。70 期の幹事長はいつも締切を守ってくれてありがたいね。ところで、総務委員長の横溝さんは 21 期で 100 歳もとっくに越えているのに元気だなあ。悩みが無いのが長生きの秘訣かなあ……。詰まらないことを考えないで、編集作業を進めなくては。



またまた、編集長は呟いた。

次の記事はえーっと。OB 山行か。今回は八ヶ岳。案内記事にいつものような 3D 映像を埋め込むだけでは、面白く無いなあ。何かインパクトのある映像が無いかなあ。……。八ヶ岳が富士山のような単独峰だったら、裾野の規模から計算すると 4000m 級の山になったはずだな。そうだ、4000m 級の八ヶ岳のリアルな映像を作って記事に埋め込んでみることにしよう。

編集長は R2D2 の頭部に手を触れて「八ヶ岳、単独峰!」と念じると、巨大な単独峰の八ヶ岳が出現した。

何かもっとインパクトが欲しいな。そうだ、噴火させて山の形成時を再現してみよう。・・・おお！  
なかなかの迫力。これはいい映像だ。さらに近づいて、いいぞ、そのまま火口に入ってみよう。おお、熱くなってきた。熱さもリアルだなあ。最近の映像再現装置は凄いなあ。あれ、どんどん溶岩炎に近づいている。熱い、熱い、熱い・・・。止まらないぞ。あれ、あれ、あ、そうだ、再現装置の安全スイッチを入れるのを忘れた。スイッチはどこだ。ああ、熱い、体が燃える、体が焼ける・・・・・・。誰かー 誰か、助けてくれー・・・・・・。



そこで、編集長は目が覚めた。何だ、夢だったのか。部屋の壁に掛けてあるカレンダーを見ると、【2012年3月10日 土曜日】の文字。ああ、会報50号の編集作業をしなくては・・・。（完）

.....

OB会活動が末永く続き、OB 会報が100号、200号と続いていくことを祈念して筆を置きたいと思います。尚、この小説はフィクションであり、登場する人物が実在する人物と酷似していることもありますが、実在する人物とは全く関係ありません。

（OB会報No.50からの抜粋。写真はYWV20ホームページ版として挿入）